



HOSPITAL



健康維持のため積極的に健診を受けましょう

健康づくりは 予防から



◆国保特定健診の受診拡大を

問 健康項目に心電図・眼底検査など追加の考えは。(山口)

答 市では人工透析・糖尿病等の血液検査項目を独自に追加しているが、医師会と相談し検討していく。

◆市民の健康について

問 国保特定健診の実施率と保健指導の状況。(中原巳)

答 昨年導入され初年度計画目標35%には届かなかった。21年度については計画目標値40%に近づいている。昨年度休日健診や託児、本年度夜間健診を取り入れ工夫している。特定保健指導は目標値を大きく上回る実施率である。

問 高齢者の肺炎球菌ワクチン接種は有効のようであるが市内の状況は。(中原巳)

◆新型インフルエンザ対策

問 保育園が休園になった場合、昨今の雇用情勢から親は

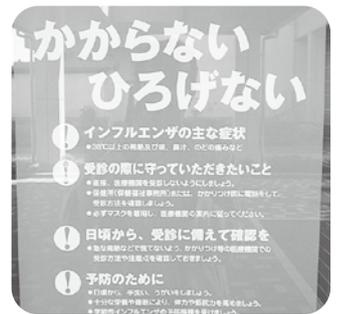
答 平成19年度市内の肺炎で亡くなった方の92%が75歳以上の高齢者であった。高齢者の健康、医療費削減にも繋がるので季節性インフルエンザの予防接種との関連も含め医師会の予防接種委員会と相談しながら検討したい。

問 高齢者の肺炎予防にワクチンが有効であるが実施する考えはどうか。(山口)

答 高齢者の健康管理は大切であるので今後検討していく。

問 小児の命を守る為ヒブワクチン接種は有効性が高いが3万円と高価である。接種補助の予定はどうか。(山口)

答 ヒブとは細菌性髄膜炎であり風邪と区別がつきにくく治療が難しい。5%が命にかわり25%に障がいが残ってしまう。任意の予防接種であるが検討していく。



「かからない」対策



市は、新型インフルエンザ緊急対応について5月に家庭保育調査を実施

子どもたちの 健やかな 成長を

仕事を休みづらいが対応は考えているか。(中村)

答 保護者アンケートを5月に実施し、保育する人がいない世帯は246世帯、緊急保育を希望する世帯は72世帯であった。最小限の緊急保育は必要であり、一部の園の場合は、近隣の園で対応し、市全域に広がった場合は、園を特定し、優先順位を付けて受け入れる。

◆子育て支援の方向は

問 塩尻市の子育て支援の特徴と今後の課題は。(鈴木)

答 こども教育部で、0〜18歳の子どもの問題に対応。幼保小連携の元気っ子応援事業、病児保育、ショートステイ事業等進めている。有害図書自



子育て支援の取り組み (離乳食学習のびよびよ教室)

販機は条例設置後ゼロとなった。子育てアンケートでは、子育てと仕事の両立への支援、経済的支援拡充等の要望がよせられている。家庭、地域、企業などとも連携した取り組みを進めていく。

問 子どもを守る条例制定へ子どもの権利、教育環境を守る条例の検討を。(永田)

答 条例の制定により、成果が上っている自治体もあり、研究、検討していく。

◆不登校の実態と対策は

問 今回報道された不登校児童・生徒数の結果から、県は、現在の対策を見直す方向のようだが市の考えは。(今井)

答 市では、不登校の予防、早期発見、早期対応し、実態を把握し相談、アドバイス等に取り組んでいる。学校への登校が不可能な児童・生徒に中間教室を開設し、登校に向けた支援活動を行っている。